　１０月２８日（木）、兵庫県姫路市でご開業の北道敏行先生をお迎えして学術講演会「デジタルデンティストリーの到達点と展望」をZoom配信にて開催しました。

今回の講演会は、近年急速な進歩を遂げているIOS（口腔内スキャナー）を用いた光学印象をはじめとしたデジタル歯科臨床に関するトピックをテーマとしたものでした。

　当日は和歌山協会及び鹿児島協会の会員の先生方もご視聴され、このテーマの全国的な関心の高さをうかがわせました。

　北道先生の講演内容は大きく分けて、①デジタルデンティストリーとは何か、②IOS（口腔内スキャナー）の理論と臨床、③支台歯形成及び接着の理論と臨床、④マテリアル・セレクション（症例に応じた材料選択）、と４パートに分かれていました。

　デジタルデンティストリーとは何か、というテーマに関しては、スイス・チューリヒ大学におけるセレックの開発秘話、コンポジットレジンの重合収縮に対するメガフィラーの概念、DX（デジタルトランスフォーメーション）等について詳細な解説を加えられました。

　IOSに関するパートでは、現在発売されている様々な機種における撮影原理といった基礎理論から、実際に光学印象を行うに際してのコツなどの臨床面まで幅広い知識と経験に裏打ちされた詳細な解説をしていただきました。

　支台歯形成及び接着に関しては、ミリングマシーンのバーの直径を意識した形成、超音波チップを使用した隣接面の仕上げ、IDS（イミディエイト・デンティンシーリング）、コンポジットレジンによるビルドアップなどについて動画を交えて実際の臨床の勘所を余すところなくご披露いただきました。

　最後のマテリアル・セレクションのパートでは、歯肉縁上か縁下か、対合歯のマテリアルは何か、咬合様式はどうなのか、といったファクターから最適なマテリアルを選択する必要があると力説されました。このパートでは、治療のスタート段階からすでにマテリアルは決まっているとの重要な勘所の解説がありました。

　質疑応答では活発な質問が相次ぎ、先生方の日常臨床における疑問点について、北道先生から熱く、そして丁寧にご回答いただきました。

北道先生の言葉で強く印象に残ったのは、デジタルデンティストリーが働き方改革に寄与し、歯科技工士さんの長時間労働の問題や人手不足が叫ばれる中でクリニックの業務効率化にも大きな効果を及ぼすというものでした。講演動画をホームページに公開していますので、当日ご欠席された先生方にもぜひご視聴をお勧めします。